野田町の山田楽

【所　在　地】出水市野田町上名青木（山田楽保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 38 年６月 17 日

もと，野田町上名の若宮神社の旧７月８日の例祭に，「お八日踊り」として奉納していたものである。

現在は野田町中郡の熊野神社の秋祭りに奉納している。

踊り手は，もとは上名の青年全員であったが，現在は青年の人数が減少したため小中学生を含め保存会が中心となっている。

鉦打ちは，着流しにシベ笠をかぶる。宮太鼓打ちは長着物の脇裾をつりあげ，毛笠をかぶり，大太鼓を左脇に吊る。平バッチョ打ちは，仕事着を着て手拭を兵児かぶりにし，竹笹を背負って，平たい小太鼓を胸に吊る。楽だけで歌はなく，激しく跳躍する踊りで，踊りながら，横隊，円陣，さらに縦隊を複雑に変える。また，踊りのなかに笹を払う場面がある。

出水の領主山田昌巌が始めたといわれるところから「山田楽」といい，出陣と凱旋の形をとり入れたものとされる。

複雑な構成をもつ太鼓踊りの代表的なものであって，念仏系統の太鼓踊りの姿をよくとどめているものである。